

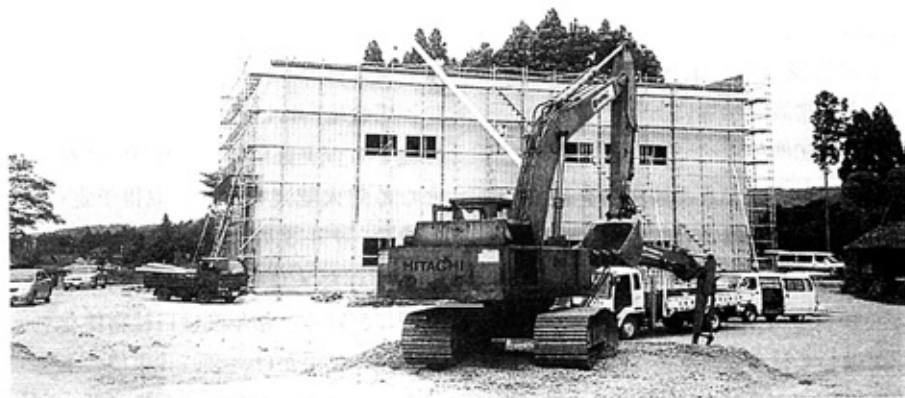
Product **NEW**

同社の中核に当たる第2工場を新設

敷地5千坪に新工場1棟を加え3棟の機械製造ラインを確立

木工産業機械メーカーの日高機械（日高明正社長）は本社近くの志賀町代田に鉄工関係の受注態勢を強化する目的で本社工場の補助的な役割をもたせた敷地面積5,000坪を有する第2工場を新設した。

現在、特殊大型機械製造ライン向け新工場1棟（約1,000坪）を建設中で、年内完成に向けて急ピッチで工事を進めている。新工場は屋根までの高さが12mあり、高さ8、9m級の大型機械組み立て工場として使用する。工場内部には、10tから20tまでの重量を吊り上げるクレーンが配備され、20tクレーンは5,000万円相当の付帯設備となる。既存の2工場では、すでに受注台数20台分の1億2,000万円の鉄工用加工機械の組み立てが始まっており、日高グ



急ピッチに進められている高さ12mの第2工場の新築現場

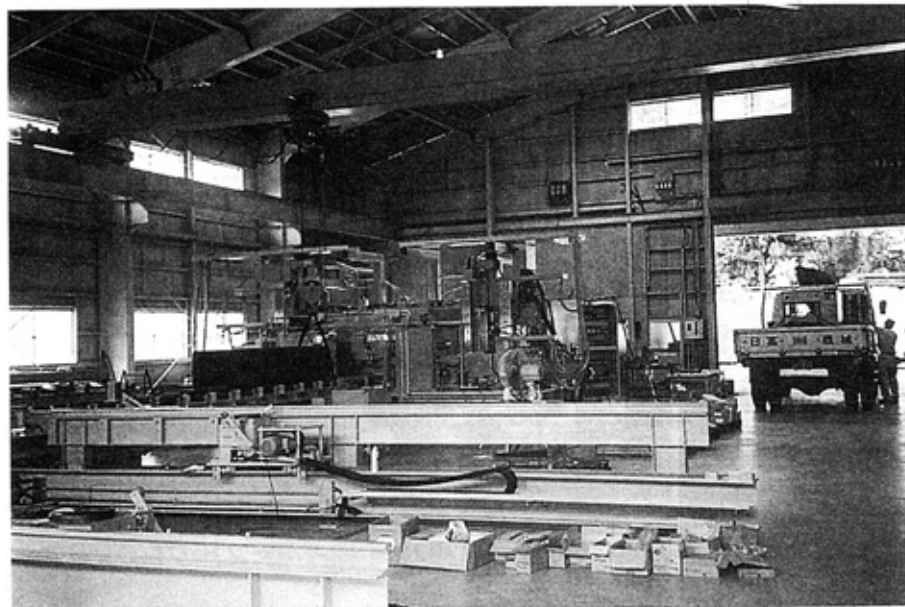
ループの田辺鉄工所・志賀工場同等の機械設備を保有する第2場として、来春より本格稼働になる。第2工場は比較的背丈のある鉄工用、木材加工機械の組み立てと製造工場に当てる。

一方、同社は、国産スギ、ヒノキ

等の間伐材を使った独自パネル工法・ボアズ事業を近々本格化する。現在、志賀町大島の繊維工場跡地約2,500坪を入手し、既存建物をそのまま生かし、木材加工の工場としてリニューアルに約5億円かけて整備、今秋までに完了させて稼働を開始する。

輸入材におされて国産材の市場低迷が続くなか、有効活用して山林環境保全に繋げようとする森林経営の水嶽（愛知県名古屋市中区白壁2、鈴木基之社長）と共同でボアズ事業を立ち上げたもの。同パネル工法は、柱に用いる太い角材を合わせたパネルで、壁や床、屋根を組み立てるため、頑丈な構造となる。耐震性や耐火性に優れるため、一般住宅から事務所用に至る建築構造体での需要も見込める。

約1,000坪の工場は木材乾燥保管庫、同社各種加工機械常設展示場を兼ねた木材加工場を有する3棟。最



既設工場では鉄工用加工機械20台の受注に対応していち早く稼働

国産材のパネル工法・ボアズ事業を立ち上げ、 5億円投じて木材加工専用の新工場を設置

長14m、直径1mの木材を成形できる加工機械等を順次配備する。また、平屋造りの宿舎(宿泊可能人数7)も間伐スギ材によりリフォームし、常時泊まることができるため、機械操作指導トレーニング、加工支援、試作などを学ぶ場合に使用する宿泊施設も併設している。

常設機械展示場兼木材加工場には、富来常設展示場にあった各種加工機械約50機種すべてを移して実際に常時加工実演できる展示場を兼ねて木材加工の工場として運営。現場加工は(株)ノースウッド(石川県羽咋郡宝達志水町米出、藤橋一郎社長)が担当して行く。

工場内でパネルに仕上げるため、現場での工期は基本構造だけなら3、4日程度と短期間でOK。パネ

ル同士は特殊金具で接合し、接着剤は未使用のため、シックハウス症候群の原因となる化学物質も発生しない。材質には、新月になると休眠状態になり、水や養分を吸い上げない木の特性を利用した新月伐採木の国産スギにこだわり、腐食しにくく、虫もつきにくいと、寿命が延ばせる有望素材の木材を大量保管。さらに工場敷地内には木造建築では防火性能をもつ実証用建物(国内では初となる防火認定を早期に取得予定)を建設、データの収集を進め、耐火性に優れたメリットを活かしたPR展開に繋げる。初年度は自社物件などを主体に手がけ、2、3年後の本格受注をめざす。

「日本の気候・風土で育った最高の建築資材として有望な国産スギ材

の新月伐採木を自社の優れた技術力と加工機械設備で甦らせ、地場産材の用途拡大に繋げることが目的。増え続ける国産間伐材の有効活用と環境保全はりんき事業の役目だが、ボアズ事業の本格化で、木材が高付加価値をもった製品に生まれ変わるとともに、新需要の創出を通じて地域事業の活性化にもつながっていくものと確信している」と、日高明広専務は語り、新事業に期待をかけている。

ボアズ事業部の開始で富来常設展示場は工作部品加工のOEM生産の富来工場として活用され、田鶴浜マシセンター及び能登工場は金属・鉄工用機械工場に使用する。これにより日高グループ全体の製造部門は6工場、年間売上高約25億円を確立することになる。



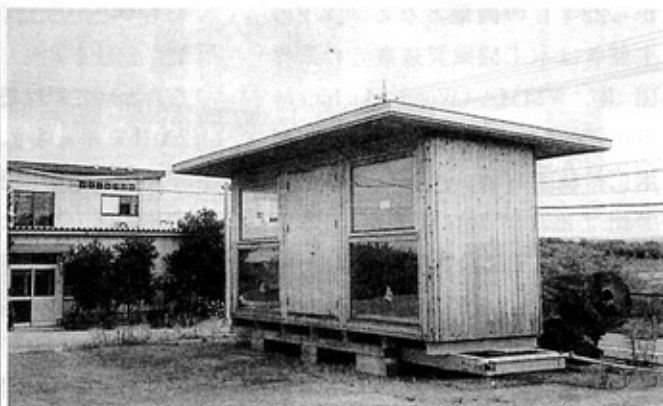
敷地2500坪を有するボアズ事業の木材加工の既存工場一部



改装工事を終えたばかりの宿泊施設も併設



国産材の有効活用で“新月伐採木”を大量に保管されている工場内



地場地域の国産スギ材で建てられた体験テスト用ヘアガラス入り建物